

申請者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	沖本 克子
調査研究課題	RCAに基づいたインシデントレポートの分析と医療安全文化の変化					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	沖本 克子	看護学科・教授	小児看護学	研究の総括・実施	
	分担者	網野 裕子	看護学科・助教	小児看護学	研究の実施・会計	
		犬飼 智子	看護学科・助教	成人看護学	研究の実施	
		高林 範子	看護学科・助教	基礎看護学	研究の実施	
鈴木 千絵子		関西福祉大学看護学部 ・准教授	老年看護学	研究の実施		
調査研究実績の概要	<p>【研究の概要】 本研究は、保健福祉推進センターに所属する岡山医療安全研究会（沖本(代表)、網野、犬飼、高林、鈴木）によるRCAに関する調査研究である。 RCA（Root cause analysis：根本原因分析）は、米国の医療機関でスタンダードとなっているインシデント・アクシデント報告事例の原因分析であり、対策立案・実施・評価まで一連のプロセスを誰もが実践できるように考えられた手法である。日本国内の多くの病院で、このRCAを用いてインシデント等の分析が行われているが、医療安全管理者は別として、多くの医療従事者がRCAに関する知識と技術がまだ十分に身につけていない状況にある。そこで、本研究会は、RCAに関する知識と技術の普及を図り、地域の医療安全に貢献するために、RCA手法を学ぶ研修会を岡山県全医療施設の医療従事者を対象として継続的に開催している。</p> <p>本研究は、RCAに関する研修会が継続的に開催されることにより、医療施設の医療安全文化に変化がみられるのかどうかを明らかにし、RCAに関する研修会の地域の医療安全への効果を測ろうとするものである。なお、医療安全文化は、平成13年厚生労働省医療安全対策検討会のヒューマンエラー部会によれば、安全な医療を提供するための特に重要な項目の第一番目に挙げられている。</p> <p>研究デザインは縦断的横断的研究であり、3年間にわたり、RCAに関する研修会に参加した医療施設の医療安全文化を調査する。研究の対象者は管理者を除く看護職者とし、調査内容は①社会的背景、②Matsubaraによって開発された「医療安全風土尺度」を用いた医療安全文化である。</p>					

地域貢献への
 反映を踏まえ
 て記述のこと

調査研究実績
の概要

地域貢献への
反映を踏まえ
て記述のこと

【研究の経過】

- ・丸山雅道氏（岡山大学病院看護師長）を講師としたRCAに関する研修会を開催した。
（2016年7月2日（土）於：県立大学）
研修内容は次のとおりである。RCAの基礎的知識に関する講義後、5～6名のグループに分かれて演習を行った。演習は、インシデント事例をRCAに基づいて分析し、対策を立てるというものであった。最後に、その成果を発表し、参加者全員で共有した。
- ・本学研究倫理委員会にて研究の承諾を得た。
（2016年9月27日 受付番号【16-47】）
- ・RCAに関する研修会に参加した医療施設に、第1回調査の研究依頼を行なった。
（2017年10月～12月）
- ・研究の同意が得られた医療施設に934枚の調査票を配布し、440人から返信があり、データベースの作成を行った。
（2017年1月～3月）
- ・今後、データを分析していく予定である。また、2017年度、2018年度に同様の調査を行う予定である。

【地域貢献の波及状況】

RCAに関する研修会の地域貢献の長期的波及状況は、本研究が計画しているように縦断的な観察により評価されるべきものであるが、本研究は終了していないため現時点では明確に数値をもって示すことはできない。そこで、実施したRCAに関する研修会の終了後アンケートから、研修会の短期的波及状況を紹介する。

研修参加者は73名であった。職種の大部分は看護師であるが、放射線技師や臨床工学技士の参加もみられた。アンケート回答者70名のうち、研修内容が「とても良かった」「良かった」と答えた参加者は65人（92.8%）であった。今後も研修会に「是非参加したい」「参加したい」と答えた参加者は58人（90%）であった。RCAに関する研修会は半日の研修であったが、一日研修でじっくりと学びたいというコメントもあった。

2017、2018年度にRCAに関する研修会を開催する予定である。今後、研修会参加者が増加することにより、医療安全に対する感性も少しずつアップしていくものと考えられる。

参加者の多くは中小医療機関に属していた。中小医療機関は大規模病院に比べ医療安全に対する予算も十分ではないと考えられるので、本研究会のRCAに関する研修会を継続的に開催することは地域貢献に大いに役立っていると考えられる。